

## 編集 後記

新しい年を迎えたところで新型コロナウイルスが急速に拡大し、第6波に突入しました。繰り返される感染拡大に私たちは少しずつ対処力を高めているように思います。私の所属する大学のある神奈川県では保健所と大学とが平時から連携する大切さを実感し、第6波が訪れる前に具体的な連携方法を両者で話し合いました。これまでよりはスムーズに対応できることを期待しつつ、一日も早い収束を願っているところです。

さて、今月号は原著4編、資料1編を掲載しています。

第1編は、日本国内の成人男女を対象とした調査によって、「U=U（ウイルス量検出限界値未満なら感染しない）」に関する情報とパブリックスティグマとの関連等を示した研究です。「U=U」を対象者に説明することによって、HIV陽性者への社会的距離が減る結果が一部の項目で見られたことが報告されています。

第2編は、高齢者の通いの場への参加による、要支援・要介護リスクの抑制効果を、政令指定都市から郡部までの24市町を対象に検証した研究です。通いの場への参加による介護予防効果が認められ、多様な市町を対象としていることから一般化可能性を示唆する結果であることが示されています。

第3編は、マンモグラフィ単独検診の推進に向けた視触診省略による対応策を検討した研究です。研究結果を踏まえて、マンモグラフィ単独検診の推進では、しこりや分泌物の自覚症状に着目した受診勧奨の啓発、問診の徹底と観察、多職種の連携等が提案されています。

第4編は、高校生を対象に、ケア役割がヤングケアラーの精神的健康に与える影響について明らかにした研究です。高校生といった若者において、ケア役割の負担が精神的健康に影響しうる可能性が明らかにされました。

第5編は、東日本大震災を経験した福島県住民における心的外傷後成長（Posttraumatic growth）の実態を、調査票の自由記載を分類することによって明らかにした研究です。教育歴等の基本属性や放射線健康影響不安から回復したか否かによって、原子力問題への認識等に異なる傾向が見られたことが報告されています。

いずれも公衆衛生の学問的発展だけでなく、実践の一助となるような示唆に富んだ論文です。今後もより多くの皆様からのご投稿をお待ちしております。（田口敦子）

## 次号予告（第69巻・第3号）

### 原著

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言時における  
歯科受療行動とその関連要因

……………竹田飛鳥，他  
同世代の友達からの飲酒と喫煙の誘いに対する  
高校生の断り方……………岩田英樹

### 資料

基礎疾患保持者の新型コロナウイルス感染症に対する  
認識と受療状況：2020年8月～9月の状況  
についてのアンケート調査……………奥山絢子，他  
高齢期における就労と主観的健康感の縦断的関  
連：システムティックレビュー……………渡邊 彩，他  
COVID-19が市町村保健師とコミュニケーション  
に関わる保健師活動へ及ぼす影響

……………笠原美香，他